

2508 大腿骨頸部骨折患者の骨シンチグラフィー
大森薫雄（神奈川県立厚木病院整形外科），服部
文夫（同 放射線科），宮島昭博，沢井博司（慈
恵医大整形外科）

大腿骨頸部骨折患者に骨シンチグラフィーを行い、
本法がその骨癒合の時期を判定するうえにおいて有用
であるか否かにつき検討したので報告する。

対象は昭和53年以降，当院整形外科で治療した大
腿骨頸部骨折患者86例で，その平均年齢は76.7才
である。解析方法はテレビのカラーモニターの上にマ
ップ表示を行い，その画像における局所病変部位，な
らびに健側肢のそれに対応する部位に任意の関心領域
を設定し，これらの領域内の総カウント数を算出して
左右の集積比を求めた。

全例，受傷側に集積の増強がみられ，長期間にわた
り骨折部の構築の改変が行われていることがうかがわ
れた。また偽関節をいし遷延治療が疑われる症例では
3ヶ月以後でもなお強い集積比が認められた。

以上より，骨シンチグラフィーによる経時的観察は，
骨癒合の程度，合併症の早期発見などにおいて有用で
あり，術後の成績判定にも応用できる。

2509 関節シンチグラフィーによるRAの活動性
評価

大森薫雄（神奈川県立厚木病院整形外科），服部
文夫，林 茂利（同放射線科），宮島昭博，沢井
博司（慈恵医大整形外科）

関節シンチグラフィーにより，手指関節炎の活動性
の評価を試みたので，その成績につき報告する。対象
は当院整形外科で治療中の classical および Defi-
nite RA 患者36例である。解析方法はテレビのカラ
ーモニターの上にマップ表示をおこない，その画像の
M P 関節ならびに各指の基節骨中央部にそれぞれ10ヶ
ずつの関心領域を設け，各指につき骨部と関節部とに
おけるカウント数の比を求めて炎症関節の index と
した。

両手の Tc-index の平均値と，赤沈値ならびに
CRP 値との間には相関関係がみられた。また薬効の評
定に応用できるか否かを検討するため，ステロイド剤
投与後の Tc-index の推移をみたところ，16 手中 3 手
を除き殆んど症例が治療後，Tc-index の低下をし
めし病勢の鎮静化がみられた。

以上の成績から，関節シンチグラフィーから得られ
た Tc-index は，炎症の活動性の判定，治療経過や
薬効の判定などに客観的な評価法として応用できる。

2510 慢性関節リウマチにおける関節シンチグラ
フィの臨床的検討

島袋固定，城野和雄，坂田博道，中條政敬，
篠原慎治（鹿大・放）

慢性関節リウマチ（RA）40症例に対して， $^{99m}\text{TcO}_4^-$
による関節シンチグラフィを施行し，以下の結果を得
，有用であると思われたので報告したい。

1. 40症例，1670部位の症状の有無と集積の有無の比
較では両者の一致率は81%と高く，RAの客観的評価法
として使用しうるものと考えられた。

2. CRP，血沈と集積の程度との間には正の相関がみ
られ，RAの活動性の評価法として有用であると考えら
れた。

3. 骨 X 線検査との対比では，骨 X 線写真上変化がみ
られない早期 RA（Stage I）の症例でも集積がみられ
る例が多く，病変部位の早期発見にも有用であると考
えられた。

4. 関節集積曲線の検討では，RAの T_{1/2} は正常例や他
の関節疾患に比べて短かく，鑑別診断の一助になりう
るものと思われた。

2511 顎骨に発生した動脈瘤様骨嚢腫の核医学
的検査所見

奥山武雄，鈴木 均，桑原雄二，峯 博子
鈴木宗治（東医歯大・放）

顎・顔面領域の骨の異常を対象にして核医学的
検査を施行した76症例中，極めて稀な下顎骨由
来の動脈瘤様骨嚢腫の2症例（6才男児，12才
女児）を経験した。興味ある所見が得られたので，
鑑別診断上の情報に着眼して述べる。

単純 X 線写真では，境界比較的明瞭な骨膨隆の
著しい透亮像を示し，鑑別上種々の嚢胞，血管
腫，エナメル上皮腫あるいは悪性腫瘍が問題とな
った。

骨スキャンでは病巣の辺縁部に顕著な輪状集積
像が見られた。その所見はエナメル上皮腫と類似
しているが，歯源性角化嚢胞とは異質であった。
RI アンギオでは RI 集積の増強，ブールスキャン
での陽性像共に見られず，X 線アンギオの裏付
けとなり，特に血管腫との鑑別に有用であった。

CT では，骨皮質の菲薄化を伴う骨膨張と内部
の粗大な骨梁分画像が観察された。

以上を総括し，顎骨の腫瘍または腫瘍性疾患に
対する核医学的検査の意義について言及する。